

## <ぶらり探訪>

### 一同志社ゆかりの地を訪ねて一

ホノルルに天守閣のあるマキキ聖城キリスト教会  
今日のハワイ繁栄の礎を築いた同志社人奥村多喜衛

(同志社ジャーナル 84号「ぶらり探訪」追記)

### <奥村多喜衛ハワイでの初期の活動>

・キリスト教牧師＝教育者＝社会事業家の顔を持ってハワイ日系移民の定住、即ち米化運動を積極的に推進し日系一世、二世に生涯ハワイで生活する為の基礎作りから活動を開始した。

・1800年代は牧師として伝道中心の活動で日系移民の生活状況を知るにつけ、一世は出稼ぎ根性抜けきらず定着しての生活設計を持っていない人が多かった。※祖国日本への仕送りで経済的にも夫婦で働いても手元にあまり残らず、子供の教育まで手が回らなかったそれは、子供(二世)への言葉(日本語・英語)の教育が足りず、親子の意思疎通、絆が不十分であったことを次の場面で痛感するのである。ハワイ到着後間もなく日系一世宅を訪ねた時、一人の少女から「ミーマ、ハナハナ、ようこない」という言葉を聞いた。彼女の言っている意味が分からず一世の方に説明を求めたところ、「ミーマ」は英語の「ミーのママ→マイママ」「ハナハナ」はハワイ語で「仕事」「ようこない」は日本語の「来ることが出来ない」という事であった。

少女が話した3か国語の背景には多国籍社会の特殊な事情があった。日本人のハワイ移民再開から10年経っていた。当時ハワイでは約2万5000人の日本人が暮らし、学令に達する二世も現れていた。それにも拘わらず、夫婦共仕事に追われ子供たちの教育がおざなりにされている現状に奥村のショックは大きかった。彼はアメリカ新大陸へ移住した清教徒は移住後直ぐに住居、教会、学校を建て建国をした彼らに感動していた奥村はハワイの日本人の子供教育について真剣に考え始めた。

奥村多喜衛は1896(明治29)年4月6日エマホールの一室で7人の生徒による「ホノルル日本人小学校」を開設した。これが彼の教育者の始まりとなった。



写真 1 1895 ホノルルに日本語を教える日本人小学校が開設 その頃の寄宿舍奥村ホームの子供達



写真2 1900年頃の少年野球日本人チーム、ポルトガルチームハワイチームと試合をして度々優勝

奥村は1902(明治35)年、10年勤めたヌアヌ教会を辞しハワイ伝道会社(アメリカ会衆派・ハワイアンボード)支援のもと、ハワイで育てあげた前田亀太郎を助手にマキキ方面の伝道を始めた。個別訪問を実施、ある時は人家の庭先で、奉公人部屋で、膝を付き合せて伝道の毎日だった。1903年9月男女9人が洗礼を受け、翌年4月ついにキナウ町の貸家において会員24人のマキキ教会が組織された。名称は「マキキ日本人教会とする予定であったが、ハワイ伝道会社からのアドバイスで「日本人」を除き「マキキ教会」として国際的な教会を目指した。奥村はまだ内向きの日本人という気持ちが心の隅に残っていたのがこれを機に、ハワイの日本人に完全にスイッチが入った。自の教会を持つことで、いよいよ自分の思う教会運営に邁進することになる。1906年日本とハワイの有志で400人収容の教会を建設した



写真3 1906年建設初代マキキ教会

### ＜天守閣のある教会堂建設へ＞

1929(昭和4)年4月に教会設立25周年記念に新教会堂建築計画が持ち上がった。故郷を遠く離れたこのハワイの地の日本人に何か心の拠り所になるものをと、それは故郷の高知城だった。お世話になっているホノルル市に日本風の大型教会堂を建て、美観をそえるようにしたいと考えた。旧約聖書から「神は我が城なり」「神は高き櫓なり」と1932(昭和7)年11月6日教会堂献堂により成就され、天守閣のある教会が竣工した。天守閣のあるマキキ教会は一世、二世の心のオアシスになったばかりか、米化(米国人として主体的に生きる)運動の拠点にもなり、ハワイで大きな教

会として日系人だけでなく、ハワイの人々の心よるべとして親しまれている。建設当時はダウンタウンのアロハタワーとこの天守閣は海岸や船からラウンドマークとして聳え立って見えていたといい、ホノルルの中心に美観を添えていたことだろう。その後、問題であった[二世の日本語教育]、[日本人病院]、[日本人暗黒街]、[アメリカ同化運動]、[ホノルル高知城教会堂]、[日米問題解決運動][日系市民会議]等々は解決に向かうのだが、それらは、日系人+ホスト社会有力者+日本国の政・官・財の助言、助力により乗り越えていったのである。故に、太平洋戦争発端の真珠湾攻撃は仰天の極みだっただろう。いずれにせよ、奥村は、こうした諸問題を何とか乗り切るか、上記のような協力、助力を得て解決していったのである。奥村は、常に日本人としてのプライドを保ち、先を見つめ、土佐の民権運動で培った精神と同志社で学んだ良心を常夏のハワイで開花させたのである奥村喜多衛は、ハワイの人々にとって忘れられない日系人として一目置かれていることは同志社人として嬉しい限りである。



写真4 現在の天守閣のあるマキキ聖城基督教会



写真 5 マキキ聖城基督教会礼拝堂

### <日系市民会議>

奥村が 1921（大正 10）年より始めた排日予防啓発運動は、5 年を経過し、日本（系）人の米化と二世のアメリカ人教育という二大目標をおおよそ達成した。そこで 1926 年から第二期運動として二世問題に関する本格的な活動を開始した。ハワイ生れの二世は 8 万人に上り社会に出て自立する二世も増えていった。その中から社会を指導するリーダーの誕生が期待された。しかも日本人だけでなく、アメリカ人にも信望が厚い二世リーダーでなければならなかった。1927（昭和 2）年、奥村は、日系市民会議なるものを開始した。各島出身の日系市民（二世）をホノルルに集めリーダー養成するための研修だった。数回にわたり耕地巡回を続けているうちに、日本人がアメリカ人を一段上の人と考えていることに気付いた。当時、耕地のアメリカ人は、耕地支那人や公立学校教師などの職種にあり上司や教師というだけで彼らアメリカ人を「偉い」と思い込み、一方で自分たちを卑下する傾向にあった。自ら卑下することは不平や不満につながり、その不健全な精神が諸種の面倒な事件の根元であると考えた。同時に、そこに二世の未来を閉ざす危険性も感じていた。二世を立派なアメリカ人として養成する為の「日系市民会議」開催への協力を呼びかけた。快く承諾したのは原田助ハワイ大学教授、毛利伊賀日本人病院院長、相賀安太郎「日布時事」社長、ハワイ伝道会社ジョン・エルドマンであり、奥村多喜衛を含め 5 人で「日系市民会議」実行委員会を組織した。「日系市民会議」の各島代表者はアメリカ市民権を有する者、学校生活を完了した者、一定の職業に従事している者の三条件を満たしていなければならなかった。性別や宗教は問わなかった。奥村の計画は、ホノルルに集まった代表青年が知事やその他有力なアメリカ人と食事を含めて交流すること、アメリカ人の家庭に招待され、暖かいもてなしを受けることであった。アメリカ人要人とひと時を過ごし、打ち解けた会話を交わすだけで、二世にはアメリカ人と自分達が平等であるという自覚が芽生えるであろうと考えた。さらに数日間の「日系市民会議」を通じて自信を強め、責任を認識し、将来ハワイにおいて立派なリーダーとして成長するであろうと思ったのである。会議の内容は日本語研究、各種問題についてアメリカ人座長

による自由討議、各界アメリカ人有力者の講演と交流、スポーツや映画鑑賞、晚餐会、そしてアメリカ人家庭訪問と盛りだくさんであった。わずか一週間の研修が大学一年分の授業に匹敵したと語る参加者もいた。会議終了時にホノルルのスターブリデン社と日布時事社が合同で参加者の為に、盛大な晚餐会を開催した。当初、「日系市民会議」に興味を示す人は決して多いとは言えなかった。ところが、間もなく奥村の下に同会議を高く評するアメリカ人の言葉が次々と寄せられた。ハワイ・キリスト教会の先達者で社会事業家のウイリアム・ウエスターベルト博士は「ミスター奥村は自分で二つの記念碑を建てた。一つはマキキ聖城キリスト教会で、もう一つは日系市民会議そのものである。と絶賛した。また、各島の日本人の間でも会議に参加した二世達の活躍が目立つようになり、「日系市民会議」への評価は絶対的なものとなった。

写真6 1928年第2回日系市民会議に一耕地から平均15名～30名が参加した。



やがて、「日系市民会議」参加者にはハワイ政・財・教育各界のリーダーが誕生した。1930（昭和5）年、第1回カウアイ島郡参事に当選した、三宅昇であり、また後に州最高裁判所首席判事となった築山長松であった。第4回「日系市民会議」が開催された1930年はハワイ市郡の総選挙の年であった。奥村は「日系市民会議」において「日系市民と投票問題」と題する文面を発表し、組織票の危険性を説いた。そもそも、投票は個人や一部の人々の権利の為に用いるべきでない。

（中略）布哇（ハワイ）の様な各国人寄合の所にて投票に人種的色彩の加わることは危険なものである。（中略）候補者が日本人の利権を図るとか、投票者が日系市民候補者なる故に投票するとか、即ち日系市民は人種的投票を受けると認められることがあれば、将来は不利の地位に立ったであろう……。

1927年参加者十四名で始まった日系市民会議は1941年夏大会まで続き、その間の参加者総数は八

百人を超えた。一耕地から平均十五～三十人の日系市民会議参加者が誕生し、彼らは地域やハワイ全体の指導者へ成長していった。

## ＜故郷高知で開催された「奥村多喜衛とハワイ日系移民展」＞

2000年3月25日～5月7日の間「奥村多喜衛とハワイ日系移民展」が高知市立自由民権記念館で開催され大盛況だった。これを機に高知県の中学生、高校生や県内諸団体との交流が毎年行われるようになり、今も盛んに交流が続いている。奥村多喜衛協会の会長中川英佐先生、ハワイ支部長の黒田朔牧師とそれぞれ日本・ハワイの事務局長を務め盛んな交流が行われている。黒田朔・康子夫妻は1983年よりマキキキリスト教会に勤め28年間一世、二世達の為の日本語部門を守り発展させた。高知県との交流を機に奥村多喜衛協会の活動を行ってきたが、今年4月末をもって牧師を退き、オタスケマンミニストリーとして日本・ハワイ・アメリカ・ヨーロッパ・南米等で活躍する事になっている。黒田夫妻、長い間お勤め有難う御座いました。尚後任に具志堅聖牧師が4月より引継ぎ、日本語部の牧師に就任されている。

**奥村多喜衛とハワイ日系移民展**  
Takie Okumura and the Japanese Hawaiians

会期 2000年3月25日(土)～5月7日(日) 入場無料

会場 高知市立自由民権記念館  
Kochi Liberty and People's Rights Museum  
〒780-8010 高知市権後通4丁目14-3 Tel.088-831-3336

(観覧時間) AM9:30～PM5:00 (休曜日・月曜日)  
(イベント) フラダンスワークショップ、ハワイアンショー、その他  
※2000年4月1日(土)記念シンポジウム  
基調講演:黒田朔牧師(マキキキリスト教会)

主催 「奥村多喜衛とハワイ日系移民展」実行委員会  
高知新聞社・RKC高知放送、高知市立自由民権記念館

後援 高知県、高知県教育委員会、高知市、田野町、田野町教育委員会  
高知商工会議所・高知お城まつり実行委員会、(財)高知県国際交流協会

協力 マキキキ聖城基督教会、ハワイ島日本人移民資料館・大久保清

お問い合わせ・券金受付…高知新聞企業 事業部 〒780-0870 高知市本町3-2-15  
Tel.088-825-4328 Fax.088-825-4323

**土佐からハワイへ**

写真: 高知市立自由民権記念館、下: 1986年 日系市民会議

写真7 高知で開催された奥村多喜衛と日系移民展のポスター

上記ぶらり探訪は東京ジャーナル 84 号に掲載されたものに加筆した記事です。校友の皆様がハワイに行かれる時には是非天守閣のあるマキキ聖城キリスト教会にお立ち寄りください。アラモアナセンターの北側、ホノルルペンサコラス t 829。(TEL 808-594-6446)取材文に掲載した写真はマキキ聖城キリスト教会資料室及び奥村多喜衛とハワイ日系移民展実行委員会の提供による。稗田賢二(34 商)

※参考文献

中川英佐著「土佐からハワイへ」－奥村多喜衛の軌跡 高知新聞企業  
奥村多喜衛とハワイ日系移民展実行委員会



写真 8 中川英佐

著者中川英佐（なかがわふさ）

高知県出身。高知大学非常勤講師。アメリカ文学専攻。アジア系あめりか文学を研究中にハワイ島日本人移民資料館の大久保清館長に出会い、奥村多喜衛の軌跡を知る。そこで出会った貴重な資料を基に、奥村研究に携わる。

尚参考図書は同志社エンタープライズ（075-251-3027）で取り扱っています。お申込みは同志社東京オフィス（03-3516-7577）まで